

## 1) - 7 変形に伴って変化する RC 造耐震壁の損傷程度と耐震性能評価

研究期間 (平成 25～27 年度)

[担当者] 向井智久、坂下雅信

本研究課題は、RC 造耐震壁を用いた損傷制御型耐震構造物を実現するために、設計に必要な損傷量や耐震性能の評価法について検証したものである。本年度は、損傷低減を実現するために、構造形式 (RC、アンボンド PCaPC) や縦方向のスリットの有無を実験変数とした 3 体の実験試験体の静的載荷実験を実施している。載荷実験では、いずれの試験体も靱性に富む安定した復元力特性を示しており、対角せん断ひび割れや端部の圧壊、ひび割れ幅といった損傷の低減効果が確認された。